

【リーダー会議での検討・改善の方向性】

- 1 食事を楽しむことができるような適切な環境設定
 - ・誕生会以外にもホールで異年齢が合同で会食できる日を増やしたり、天気の良い日はテラスを利用して戸外で食事を楽しめるような環境を増やしていく。そのためには人員配置の工夫と、感染症の流行期を控えるなどの安全面にも配慮していく。
- 2 子ども一人一人を受容した保育内容
 - ・動画や子育て政策アドバイザーを活用するなど園内研修の充実を図ることで、一人一人を受容したかわりにつなげていく。また、日頃から職員同士の連携を密に一人一人の状態を把握していく。
- 3 障害や課題のある子どもが安心して生活できる保育環境
 - ・園内研修は職種に関係なく全スタッフが参加できる機会を作り、ワンチームで支援していく。また、保護者との信頼関係を深められるよう、年2回の保護者面談の他に仮称「すこやかトークルーム」を設置して、いつでも保護者が子どものことについて相談できる機会をつくっていく。
- 4 週案・月案の指導計画作成
 - ・目の前の子どもたちの姿から、育てたい力とそれを育てるための手立てを意識した指導計画を作成していく。期限までに提出するためには、期日を意識できるように朝ミーティングで定期的を確認していく。また、負担のない指導計画を作成するために ICT 化を検討し、効率化することで職場環境を整えていく。
- 5 基本的な生活習慣を身につける環境
 - ・食具の使い方やトイレの使い方などを視覚的に伝えたり、家庭との連携を密にしていく。また、食事は精神面にも影響してくるので、食育活動を通して食事の大切さを伝えていく。
- 6 子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような人的・物的環境
 - ・引き続き音楽、運動、プログラミング、読み聞かせなどの外部講師を活用していく。さらに村の保健師や看護師を活用して、歯科や感染症に対する専門的な指導を受ける機会をつくっていく。
 - ・季節を先取りする環境設定(装飾、図鑑、絵本等)をする中で、子どもが期待して自然にふれられる機会を作っていく。また、猛暑、熊の出没で戸外に出ることが難しくなっていることから、園庭での遊びをもっと充実させて、のびのび活発に遊び込める環境をつくっていく。
- 7 子どもが言葉豊かな言語環境にふれたり、様々な表現活動を自由に体験
 - ・おひさまタイムを再開させ、異年齢で交流しながら、歌やダンスなどの表現遊びの機会をつくっていく。
- 8 事故、感染症の発生時などの緊急時、子どもの安全確保のためにできる組織としての体制
 - ・16 時以降の保育については、担任以外の職員がかかわることもあるので、支援を要する子の状態を把握できるよう連携を図り、必要に応じて声かけや見守りをして事故やケガのないよう支援していく。
 - ・園児数の減少に伴い職員数も限られてくるので、職員の連携を密にしていく。子どもの目線で保育をし、子どもの安全確保に努めていく。
 - ・応急手当と救急救命講習を全職員が受講できる機会をつくっていく。
- 9 地震、火災、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取り組み
 - ・新たに、職員の中にいる消防団を活用し、消防訓練を計画していく。
- 10 職員の福利厚生
 - ・職員の福利厚生に関する情報をより深く知り、活用の機会を増やしていく。そのためには福利厚生専用ファイルを作成したり該当者に斡旋したりして活用しやすい流れをつくっていく。